

## 令和7年度 第3回 飯田小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月21日（金） 13時50分から15時15分まで
- 2 開催場所 飯田小学校 校長室
- 3 出席委員 杉山邦司、小野逸子、鈴木美枝子、中村毅、鈴木大輔、廣瀬亜紀子
- 4 欠席委員 露木里江子、白井竜之
- 5 オブザーバー 神谷匠（東部協働センター）
- 6 学 校 勝亦英彦（校長）、町田全広（教頭）、鈴木卓（CS担当）  
小林知美（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 小林知美
- 10 議長の選出 司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木大輔委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議無くこれを承認した。
- 11 協議事項 グランドデザイン「自分から学ぶ子」「たくましい子」を目指して  
(1) 全国学力・学習状況調査を受けて  
(2) 「家庭学習の手引き」について
- 12 会議記録 司会の教頭から、委員総数8人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。  
(1) 全国学力・学習状況調査を受けて  
教頭から資料に基づき、全国学力・学習状況調査の結果や考察についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。
  - ・ 全国と比べて算数が低いように思う。子供たちは落ち着いて授業をしている。今後に期待したい。（杉山委員）
  - ・ 全体的に静かに授業を受けているが、内容まで話を聞いていない子もいる。（小野委員）
  - ・ 書き取りを家庭で行う際、1ページ書く時間の目安が学年ごとにあつたらいい。（廣瀬委員）
  - ・ 九九は時間を計っていて、時間の目安がある。書き取りもあるといい。

意識調査の「授業の内容はよくわかりますか」で、「よくわかります」と答えているが、「得意ですか」や「好きですか」は、割合が低い。授業が簡単すぎるというのであれば、時間を持て余さないように、ハイレベルレッスンみたいなものがあつてもいいかもしれない。（中村委員）

  - ・ 個人差はある。どこら辺を得意というのかは、本人の意識によってちがう。（鈴木大委員）
  - ・ 保護者に見てもらえる子と見てもらえない子の差もあると感じる。（鈴木美委員）
  - ・ 学習に関する習い事をやっている子は、学校の授業より先に学習している。（中村委員）
  - ・ 家庭学習で、授業の復習ができたり、学習状況が見られたりするものはあるか。（鈴木大委員）
  - ・ タブレットにそのようなものがある。現在、学校でタブレットの使用方法やルール等を指導し、週1回ぐらい家庭学習のために貸し出している。今後、1年生でも貸し出していきたい。（校長）
  - ・ 飯田小の子供達は、学校で、夢を育む活動を行っているから、「将来の夢や目標をもっている」が高い。（小野委員）
  - ・ 「夢や目標」については、担任が学年に応じて、その都度話している。その成果が出ている。今後は、読書の割合が低いため、意図的に本に親しむ機会を設けていきたい。（校長）
  - ・ 音読に取り組む際、声に出して読んでいるが、字をただ目で追っているだけで、内容を理解し、想像しながら読んでいない。今の子は、読書より、動画等を見るほうが楽だからよく見ている。読書の時間が取れていないので、感動する・心を揺さぶられるという経験が少ない。（廣瀬委員）
  - ・ 考えずに10回読むより、1字1字考えながら読むことが大事。（杉山委員）

- ・ 学校だけで、気持ちの読み取りを教えるのは難しい。家庭の協力も必要である。(鈴木大委員)
- ・ ボランティアでグループを作り読み聞かせがあったが、コロナ過でなくなった。(小野委員)
- ・ 学校では、朝の時間にやることは学級の裁量になっており、読書をしている学級もある。(校長)
- ・ 先生の就業時間が長いことは心配である。(杉山委員)
- ・ 今、国も働き方改革をしてくれている。保護者との対応は大事にしながらも、時間外労働を意識して減らしている。(校長)
- ・ 「先生は、あなたのおいところを認めてくれる」の割合が高いのは、先生方が努力し、常に時間の中、話を聞いたり色々やってくれたりしているからだと思う。それが子供たちに伝わっている。(鈴木大委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

## (2) 「家庭学習の手引き」について

教頭から資料に基づき、「家庭学習の手引き」についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 学校評価の家庭で保護者が「支援している」という質問に「あまり思わない」「思わない」と感じている人がいる。親自身が「支援している」と思えるようになるといい。(中村委員)
- ・ 家庭で子供が主体的に学ぶための支援は難しい。(鈴木大委員)
- ・ 「自ら」は、難しいから、声を掛けて取り組めれば、それでもいいと思う。(中村委員)
- ・ 勉強は、自分の人生の選択肢を増やすため、自分のなりたいものになるためのものと言いついている。なるべく勉強しなさいとは言わず、子供がやる気を出せるような声掛けを心掛ける。親の伝え方がポイントだと思う。学校から子供に言うだけでは限界がある。(廣瀬委員)
- ・ 親から子に伝わるような言い方を学ぶ講演会とかに参加するといいかもしれない。(杉山委員)
- ・ 自らが進学したいと思えば、進んで勉強をする。勉強は何のためにやるのかを伝えるといいかもしれない。時間の使い方が上手になってくれば、色々なことに挑戦していく。(鈴木美委員)
- ・ 学校便り等に、この会議で出た「勉強は将来の選択肢を増やすため」等、自主的に学べるような声掛けの例を入れてほしい。(中村委員)
- ・ 今回出てきた声掛けの仕方は、CS便りに載せてもいい。コップ一杯の水という話とか具体的に分かりやすいものも載せたい。将来なりたいものへの選択の幅が広がるよう支援したい。(鈴木大委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

## その他報告事項等

CSコーディネーターより12月10日コーディネーター研修会がある旨の報告があった。

次回、第4回会議は、令和8年2月5日(木)13時30分から校長室で開催する予定である旨の報告があった。